

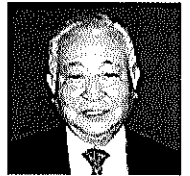


# 白門板橋

2009. 3. 16 VOL.31

編集  
発行

中央大学委員会 東京板橋区支部  
〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL03-3550-3300



■新春の「あけまして」  
**平成二十一年の新年を迎えて**

支部長 石塚 輝雄

\* \* \*

皆様、新年おめでとうございます。ご家族お揃いで佳き年をお迎えることと存じます。昨年は、支部運営にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年春、中央大学委員会より、平成一九年度支部活動報告書が送られて参りました。それによりますと、地域支部、年次支部、職域・職種等の支部は二一五で、各支部とも熱心な活動を展開しております。板橋区支部の活動状況も、会員数二七〇人をはじめ、二九の項目に亘つて報告されています。昨年の当支部の活動をふり返りますと、六月二八日の創立二〇周年記念式典は、久野学員会会長はじめ多くのご来賓をお迎えして、思い出に残るものであります。

現在、支部には幾つかの課題があります。支部の魅力づくり、会員の増強、会費収入率アップ、学員会の夕テ、ヨコの連携等であります。今後、役員、会員の皆様のご協力をいただきながら、取り組んで参りたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

次に、中央卒業パーティ二〇〇九について報告をいたします。二〇〇五年に中央卒業パーティが生まれました。「中央大学を盛り上げたい」との想いに、様々な人が共感し、大きなイベントに昇華して参りました。中央卒業パーティは、大学生活最後の年に新たなつながりを築き、今後中大生が活躍していくのに必要不可欠なつながりを用意してあげたいとの趣旨であります。以上、概要であります。が、名称、日時、場所等の詳細がありますので、参加について宜しくお願いいたします。

(「新春の集い」支部長メッセージより)

# 支部のニュース

■五九名が参加して新年を祝う

恒例の「新春の集い」が、一月二四日（土）午後六時から、区立文化会館四階の大会議室で開催されました。今回初めての試みとして、六つのテーブルにブロック別に集合し、五九名が参加して盛り上がりました。

徳永事務局次長の司会で開会。石塚支部長の新年の挨拶のあと、全員集合の記念撮影を経て、前支



部長・小日向顧問の発声で乾杯！新入会員と初参加者の自己紹介につづき、ブロック別に写真撮影が行なわれました。

そしてカラオケ同好会・佐藤義会長の洒脱な司会進行で、歌合戦も始まり、宴たけなわに。

時の経つのを惜しみながら、中三川常任幹事のリードで、校歌、応援歌を斉唱し、最後は、全員輪になり、肩を組みあつての「惜別の歌」で、お開きとなりました。（池田記）

## ■南常盤台で和やかに忘年会

支部恒例となつた忘年会が、二月六日（土）、南常盤台「鳥忠総本店」に三七名の会員が集つて、開催されました。

今回は常盤台ブロックの皆さんにお世話になりました。深山ブロック長、石塚支部長の挨拶のあと、水野相談役の発声で乾杯！碓谷副ブロック長の司会で、宴も和やかに進行。

盃を重ね、料理に舌つづみを打ち、仲間との会話に夢中になり、ほろ酔い気分になつた頃には、カラオケも始まり、雰囲気は最高潮

に達しました。

宴席での時の経つのは早いもので、気がつけば終了の時間……。名残りを惜しみつつ、栗山相談役の中締めを最後に、会場をあとにしました。（大野記）

## ■充実したホームカミングデー

今年も、高島平駅前、常盤台駅前、板橋区役所前で、合計一三名をピックアップした貸切バスは、首都高速中央環状線から中央高速道に入り、一路、多摩キャンパスを目指して行きました。

## 第一九回中央大学ホームカミング



グデーは、一〇月二六日（日）に挙行され、四一〇〇名の学員とその家族が参加しました。

クレセントホールでの開会式では、司会のNHKエグゼクティブアナウンサー葛西聖司氏（四九年法卒）のサポーター役に、スポーツキャスターで元オリンピック選手の田中雅美さん（平成一三年法卒）が起用され、会場に花を添えていました。また、さまざまなイベントの中で、ひととき人気を博していたのが、この三月に法学部を卒業した蓮池薫氏と恩師・長内了法学部教授との対談でした。

メインステージでは、いつものように、スウィング部演奏、武蔵国府太鼓演奏、応援部演技などが次々に繰り広げられ、我々を楽しませてくれました。（金子記）

## ■二〇周年記念事業協賛金

会報三〇号で報告しましたように、一三七名の方々から協賛金を頂戴しました。その後、酒井豊彦さんからご送金がありましたので、総額九一万五千円となりました。ご協力いただきました皆様方に、改めて感謝の意を表します。

# 母校のニュース

## ■大学サッカー日本一に!

一月一日、国立競技場で行なわれた第五七回全日本大学サッカー選手権大会決勝戦で、中大が筑波大に二―一で勝ち、一六年ぶり、八回目の全国制覇を成し遂げました。主力四人が累積警告による出場停止という悪条件にも関わらず、全員一丸となつての高い集中力で、見事な成果を手中にしたのです。当日、池田幹事長と大野事務局長が応援に駆けつけていて、喜びを共にしていました。



▲16年ぶりの快挙に沸くサッカー部員たち

## ■箱根駅伝は辛うじて一〇位

今年の箱根駅伝は、出雲、全日本大学駅伝とも八位と振るわなかったため、苦戦が予想されていたが、やはり一〇位と失速してしまひ、辛うじて二五年連続シードを守るにとどまりました。今後は、佐々木健太(佐久長聖)、新庄浩太(西脇工)、野脇勇志(小林)ら有望新人と共に、上位入賞をめざし頑張つて欲しいものです。

## ■入学志願者は四千人増加

少子化と不況の中、志願者の動向が懸念されていましたが、結果的には、昨年比四千人の受験者増となりました。八万二千人と急増した昨年の反動が心配されたのと同時に、難関の法学部、総合政策学部の減少はありましたが、文学部、理工学部と新たに採用された社会科学系四学部統一入試での六千人余りの純増もあつて、差引四千人の増加となりました。

## ■野球部春のリーグ戦に期待

高橋新監督を迎えた硬式野球部は、昨秋のリーグ戦で三位と健闘し、十分優勝を狙える陣容を示し

ました。とりわけ、投手陣がリーグ随一を誇り、野手陣も、昨年の甲子園組の強力一年生が加わり、大いに期待が膨らみます。またシーズン中の神宮球場には、熱心な板橋区支部会員が、中大応援のためネット裏に馳せ参じています。一緒に盛り上がりたい方は、是非顔を出してみてください。

## ■高窪理工学部教授を悼む

一月一四日午前一〇時過ぎ、後楽園キャンパス理工学部校舎内において、現役教授が刺殺されるといふ悲劇が、発生しました。被害に遭われた高窪教授の祖父、父も共に中大に奉職され、祖父喜八郎氏は、戦後学員会の再建を果たした功績者、父利一氏も退職後は世田谷区支部長を務めるなど、まさに中大の歴史を語る上で、欠かすことのできない一族でした。亡くなった高窪教授は、上智大大学院を修了後、ただちに中大に就職、若くして教授に抜擢され、将来を嘱望されていた逸材でした。誠に悲しく残念な出来事でした。心からご冥福をお祈りいたします。

(栗原記)

# 訃 報

▼武内崇泰(昭和二九年法卒) 平成二〇年一二月逝去

元副支部長

▼瀬戸一成(昭和二五年法卒) 平成二〇年七月逝去

元大山ブロック

▼岩澤忠弘(昭和二九年法卒) 平成二〇年十一月逝去

元副支部長(三年前、病気のため退会)

\*謹んでご冥福をお祈りいたします。武内さん、岩澤さんには、支部運営に関し、多大のご貢献をいただきました。

## ■新入会員紹介

▽島野浩嘉(しまのひろよし) 昭和二七年法学部中退

板橋区大山西町九ノ二

税理士

趣味/旅行、読書(歴史物)

▽宅間知和(たくまちとし) 昭和四八年法学部卒

八王子市片倉町九八二ノ一一八

板橋区役所勤務

趣味/ハイキング

# 告知板

## ■支部観桜会の日程

支部恒例の観桜会の日程が、次  
のとおり決定しましたので、お知  
らせします。

記

日時／四月四日(土) 一二時半  
集合／上練馬公園(東上線・成

増駅から徒歩二分、地  
下鉄有楽町線・成増駅か  
ら徒歩五分)

会場／笹寿司  
会費／五、〇〇〇円  
担当／赤塚ブロック

(幹事・猪橋)

申込み／別紙で三月二五日まで

## ■支部定時総会の日程

第二一回定時総会の日程が、次  
のとおり決定しましたので、お知  
らせします。

記

日時／六月二〇日(土)

午後六時から

会場／区立文化会館大会議室  
申込み／追ってご連絡いたします。

## ■同好会だより

### ◎ゴルフ同好会

昨秋一〇月二三日(水)、ノー  
ザンカントリー錦ヶ原ゴルフ場で  
行なわれた秋のコンペの結果は、  
左記のとおりでした。

優勝 菅原 孝也  
準優勝 吉岡 聡太郎  
三位 前田 昌則

なお春の大会は、四月三日(金)、  
埼玉県川越市古谷本郷の川越グリー  
ンクロスで举行されます。幹事  
は、菅原さん、片桐さんです。

### ◎パソコン同好会

今年も、月二回を目標に、板橋  
区立ハイライフプラザ一階会議室  
で、初心者講習会を開催します。

四月は九日と二三日、五月は一四  
日と二一日が決定しています(す  
べて木曜日)。当面は、実践主体の  
ワード研修で、基礎的なスキルア  
ップをめざします。この機会に、  
パソコンと仲良しになつてみては  
如何でしょうか? まずは、世話人  
の吉岡さん(☎三九三六・八三二  
五)までご連絡ください。

### ◎カラオケ同好会

五月と一〇月の年二回、グリー  
ンホール地下一階のレストラン・  
サンイチを借り切って、例会を開  
催しています。昨秋一〇月一〇日  
には、第二〇回記念カラオケ大会  
が開かれました。石塚支部長を始  
め二〇名が参加して、大いに盛り  
上がりました。三五〇〇円の会費  
で供されるのは、寿司、カツサン  
ド、鶏唐揚げ、シウマイなどの  
料理に加えて、ビール、焼酎、烏  
龍茶、日本酒などの飲み物も豊富  
で、年々参加者がふえています。

祝第20回記念カラオケ大会



第20回記念カラオケ大会 2008・10・10  
板橋白門会カラオケ同好会 於:レゾナンス・サンイチ

### ◎囲碁同好会

二〇名ほどの会員が囲碁を楽し  
んでいます。毎月第四土曜日一時  
から、西池袋囲碁サロン(☎三九  
八五・三二八〇)で、定例会を開  
催しています。五月二五日(月)  
には恒例の白門練馬支部との親善  
囲碁交流会、七月二六日(日)か  
らは秩父で一泊の囲碁合宿、一二  
月に忘年会を行ないます。興味の  
ある方は、事務局の布施さん(☎  
三九六七・一六九三)までご連絡  
ください。初心者大歓迎です!

■秋のバス旅行記

# 川治温泉湯けむり紀行



一月二三日、土曜日、勤労感謝の日、月曜日の振替休日へとづく三連休の初日に、参加者二五名を乗せて、貸切バスは板橋グリーンホール横を定時に出発した。残念ながら不参加となった、石塚支部長からのご挨拶とご芳志を頂戴してから、環七経由で東北自動車道をひた走り、鹿沼インターで一般道へ。

杉並木で名高い日光例幣使街道には、文挟（ふばさみ）という由緒ある地名も残り、旅情を掻き立ててくれる。今市伝統「そば喰い稲荷」新そばまつり会場内の「かたくり亭」で昼食をとり、「日光木彫りの里工芸センター」へ向かう。「日光下駄」の製作実演を見学してから、隣接する「日光ビール」工場・直売所も覗いてみる。

\* \*

川治温泉湯けむりの里「柏屋」は、鬼怒川と男鹿川が合流する溪谷のいで湯。豊富な湯量を誇る大



川治温泉と秋祭太々神楽奉納式にて  
板橋白門会 2009.11.22-23

りったけの野菜を入れて作った汁）などに舌つづみを打つ。料理に触発されたのか、宴会はカラオケで盛り上がり、ついには肩を組み、列を作つての踊りへと発展していった。

\* \*

浴場につかりながら、ゆったりした気分で眺める秋の絶景も素晴らしい。ひと風呂浴びてからの夕食が豪華だったので、その一部を紹介してみたい。

松茸どびんむし、岩魚炭火塩焼き、日光ゆばと牛のしゃぶしゃぶ豆乳仕立て、柏屋特製ビーフシチュー、川治の鬼子蔵汁（里芋や大根、人参、ゴボウ、青菜など、あ

今回の観光の目玉は、例幣使街道、龍王峡、大笹牧場、霧降の滝などだったが、何と言つても、二日目の大笹牧場が印象に残った。

一月二三日、牧場にはうっすら雪がつもつていて、呑みすぎ二日酔いの身は、きゅつと締まった。場長・沼尾寛さんじきじきの説明にも、真剣に聞き入っていた。さすがに、牛乳とソフトクリームは抜群に旨かった。

宇都宮餃子館別館店であつぷりギョウザを食してから、市内の八坂神社へ。秋祭「太々神楽奉納式」を見学してから帰途についた。

ここ数年、我々の相手を献身的につとめてくれている、関東バスのベテランガイド木須さんが、今回は風邪を引いて、声が出なくなっていた。別れ際、泣きながら詫がる木須さんのプロ根性には思わず涙腺が緩んだ。

（金子記）

大相撲一月場所  
中大出身力士の星取表

○ ● ○

### 共に無念の負け越し

▼豪風（尾車部屋）  
本名・成田 旭

平成一四年卒

東前頭三枚目 七勝八敗  
前半は横綱・大関陣と当たる

東風



激しい番付だったが、後半はよく頑張った。三役への復帰ならず残念。

▼出島（武蔵川部屋）  
本名・出島武春

平成八年卒

西前頭七枚目 七勝八敗  
余裕で勝ち越せる位置だったが、不満な成績に終わった。もうひと花咲かせてほしいものだ。

（池田記）

# ブロック紹介

## ③「大山・大谷ロブロック」

### ■ブロック再編成の超目玉

以前は「大山ブロック」と「大谷ロブロック」に分かれていたのですが、このたびのブロック再編成で「大山・大谷ロブロック」となり、再出発することになりました。

もともと「大山ブロック」は、石塚支部長、佐藤道則副支部長の両巨頭が在籍している有力ブロックなのですが、実働メンバーの数が少ないこともあり、これまで元気のよいお隣りの「大谷ロブロック」に何かと応援をお願いしてきました。これからは、合併効果が出たと言われるように、さらに楽しく活気のあるブロックにしてゆきたいと思っています。

前々号の「白門板橋」紙上では大谷ロブロックのみが紹介されており、今回は大山に限定してのご紹介を（独断と偏見さらには思い込みで）させていただきます。

そもそも畑地の中に大山駅がで

シリーズ第三弾。観桜会や忘年会などで支部活動の中心を担い、昨年に再編成された各ブロックを、順次紹介していきます。

きたのが昭和六年。それからの発展は目覚しく、大山銀座といわれた商店街はたいそう賑わいましたが、やがて徐々に集客力は落ちていきました。

### ■大山商店街復活への道程

そして今、商店主の二世たちが立ち上がり始めました。個人としての店ではなく、商店街の組合として、地方の物産を紹介する店「とれたて村」を開店したのです。初めは板橋区と姉妹都市を結んでいる地方の物産のみの紹介・販売で



▲白神山地フェアで賑わう大山商店街

したが、次第に種類・品数もふえ、商店街のイベント広場へは、全国各地から出展希望が殺到しています。消費者にも、ハッピーロード

大山の知名度は浸透し、集客力がまた高まりました。成功している商店街として、マスコミにも頻繁に取り上げられるようになり、各地からの見学者も急増中です。

### ■大山駅近くの名店三つ

まず第一は「キレイになるための食卓（こだわりの肉・魚・有機野菜をふんだんに使った和食ダイニング）」です。駅から一分の裏道にあるビルの三階にあり、味は勿論、落ち着いた雰囲気とリーズナブルな価格、そして何より接客態度の素晴らしさは、感動的です。第二は、商店街を暫く歩いた右側にある「とうふ屋・茂蔵」です。ここの枝豆どうふ二個セット

一〇五円は、絶対のお勧めです。最後に、カラオケ好きにもう一軒。川越街道に出る少し手前の「カラオケステージ・オークラ」は良心的な価格で音響効果もよく、マスターやバイトの女性からは、アドバイスも受けられます。

（大山・大谷ロブロック 小林記）

## ■TOPICS■

### キャンパスを襲う嵐

●W大・K大の学生が、大麻に手を染めたというニュースが走り、ほとぼりが醒めると、今度は、天下のT大大学院生（留学生）が手を染めるといふニュースに、啞然！ 呆然！

●待てよ、ここまで来ると、我が母校の後輩は大丈夫かと心配していると、後樂園キャンパスで、高窪教授が何者かに刺殺されるといふ、ショッキングなニュース。

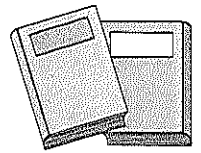
●少子化で、経営難に苦しむ私大は、本業を忘れて金融商品に手を出し、多額の損失を出しているところが多い、との噂が横行している。

●部員の不祥事で出場が危ぶまれた大学が、見事に箱根駅伝を制し、知名度アップに貢献したのは、何とも皮肉な話である。もつとも、勝利の監督胴上げは、自贖となったが……。

（平山記）

■白門作家シリーズ

# 「山本幸久文学」拾い読み



## 『渋谷に里帰り』

著者／山本幸久

発行所／日本放送出版協会

■著者プロフィール

一九六六年、東京都八王子市生まれ。中央大学文学部史学科卒。二〇〇三年『笑う招き猫』で、小説すばる新人賞を受賞。

\* 本学文学部が輩出した数少ない若手作家の一人で、学部と専攻は三宅正代（副支部長）さんの後輩になる。一般読者の知名度は低い。『笑う招き猫』と合わせて、書店から取り寄せて読んだ。両作とも、若さを感じさせる清々しさとユーモアのある作品で、将来が楽しみな新進作家である。

\* 朝、峰崎稔が出社すると、課長の椎名が待つてましたとばかりに声をかけてきた。

「ちよつと、上」椎名は人さし指を天井にむけた。「いかない？」

彼の言う「上」とは屋上のことだ。稔は背広のポケットに煙草があることを確認してから、「いいですよ」と答えた。

\* 稔の勤める富萬食品は八階建ての雑居ビルのうち、四、五、六階を占有している。社内は全面禁煙だ。喫煙者が煙草を吸う場合、以前は表へ出ていたが、杉並区が路上禁煙を実施したおかげで屋上を利用するようになった。（以下略）

\* 筆致で見る限り、決して突出したものはないが、明るく気軽に読



者を迎える雰囲気と爽やかな涼風が漂ってくるのは、著者が若いせいだろうか？

登場する主人公は、食品卸の会社の営業マンで、職場ではあまりパツとしない公立大出。

ある日、他部署のキャリア営業ウーマン（先輩）が寿退社する後任として、異動を告げられることから始まり、引継ぎを兼ねて得意先の挨拶回りに同行する。

先輩は、退社する日まで緻密で過密な訪問スケジュールを立て、精神的に渋谷の街を歩き回る。

生まれ育った渋谷の街を、担当エリアが変わったばかりに、かつてミネサキパンの「稔坊」と呼ばれた主人公が、中年女性の後を力パンを抱えて同行すること自体が屈辱なのに、幼友達に再会したり冷汗が絶えない……。ある種の青春ドラマであり、サラリーマンの悲哀物語でもある。

東京に住んでいても、日々町並みに変化し、そこに住む人も商う人も刻々と変わることに驚くが、本書でもこれを巧みにスケッチして楽しく読める。

現役営業マンに推奨したい書で、

顧客管理のノウハウも学べるのが嬉しい。

（平山記）

### ■TOPICS■ 大相撲一月場所

#### 隠されたエピソード

○ ● ● ○

●大相撲一月場所に、「司法書士白門会」が、初の懸賞を出した。ご存じのように、懸賞金額は、一本「六万円也」。しかし、最低ひと場所に五本は懸けなければならぬ。そして、中大出身力士は二人だから、どのように配分するかで頭を悩ませたとは、同会関東ブロック副会長・若木康夫（当支部幹事）氏の話。●悩みはほかにもあった。会の財政と切り離して、賛同する有志から「寄付」を募ることだった。ひと口一万円が不足が出たら、会長が自腹を切るとの発言で、見切り発車したとか……。ふとつ腹な会長に、見事に寄り切られた？

（平山記）

■田中成益に由来する町名？

一四世紀半ば、赤塚、成増、徳丸を含むと推定される地域を赤塚郷と言ひ、ここに石成(いしなり)という村がありました。足利二代将軍義詮(よしあきら)の正室幸子は、赤塚郷を僧妙葩(みょうは)は

地名の由来…②③

「成増」の巻

に寄進しました。その寄進状の下書きに「いしなりはのそき候ぬる」とあり、昔の地名で「なり」が出てくるので、これが何か関係しているのではと考える人もいます。「新編武蔵風土記稿」の中に、「成増村八元赤塚村ノ内テ石成村トイ



▲青蓮寺にある田中家墓所

へり、……マタ赤塚村清涼寺ノ山号ヲ石成山ト唱フルモ……」とありますが、石成村がなぜ成増となつたかは、記されていません。石成山清涼寺の近くに住んでゐる田中泰彦氏は、この付近の名主の家柄で第三三代に当たり、現在は幼稚園を経営されています。先

日お邪魔して伺つたお話や、その他の資料を纏めてみました。田中家はもともと甲斐の国に住んでいましたが、第一六代五郎益清の時に、一族郎党一三人を引き連れて、武蔵国豊島郡赤塚村のこの地に移ってきました。次の一七代左京成益が付近を開墾したりし

て人望があり、その功により成益の名が地名になつたといひます。幼稚園の向かいにある青蓮寺の田中家の墓には、成益のことを記した石碑があります。また成増四丁目にある庚申塔には「天下泰平武蔵豊島郡 萬民豊饒 上赤塚邑成益」と記されています。

■「小次兵衛橋」の木札

成増の昔話を一つ紹介しましょう。百々女木(すずめぎ)川が川越街道を横断する辺りを、小次兵衛久保(こじべいくぼ)と呼んでいます。百々女木という名は、川の流れる音とか、多数の雀の鳴く音から付けられたと言われています。昔ここは、一本の丸木橋しかない寂しい所でした。しかし急ぎの用のある人は、この橋を渡るしかありませんでした。盗人がこれに目をつけ、通行人を襲つては、金品を強奪していました。みんなが困っていたある日、丸木橋が立派な橋に変わつていて「罪ほろぼしにこの橋を作る。小次兵衛」と書かれた木札が、下がっていました。それで人々は、この橋を小次兵衛橋と呼び、この辺りを小次兵

衛久保と呼ぶようになったということ。 (中三川孝幸記)

\*編集後記\*

●支部のビッグ・イベントは、一月の新年会と六月の定時総会です。会場となる板橋文化会館大会議室は人気が高く、確保するのが大変なのです。使用月半年前の一日、九時前に会館受付に集まり、抽選に臨みます。このところは、幸いにも希望する日時で取れています。それが、何とか都合をつけて駆けつけてくれる、五人ほどの会員のご協力の賜物なのです。

●この会報がお手許に届くとすぐに、ゴルフ大会、観桜会、パソコン講習会、囲碁交流試合、カラオケ大会などが目白押しです。会員諸兄弟が、どれか一つにでも、参加されることを切望します。新年会などはひと味違った交流を楽しめます。(金子記)